

# 【胎児母体間輸血症候群の病態とリスク因子の解明】に 対するご協力のお願い

研究代表者 所属 自治医科大学 職名 教授  
氏名 高橋 宏典

このたび、日本産科婦人科学会データベース事業（周産期登録）を用いた下記の医学系研究を、日本産科婦人科学会の許可ならびに自治医科大学の倫理審査委員会の承認のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を診療を受けた施設までお申し出下さいますようお願いいたします。

## 1 対象となる方

西暦 2013 年 1 月 1 日より 2021 年 12 月 31 日までの間に出生された方です。

## 2 研究課題名

施設倫理審査委員会の承認番号 ●●●●●●●●

日本産科婦人科学会の許可番号 ●●●●●●●●

研究課題名 胎児母体間輸血症候群の病態とリスク因子の解明

## 3 研究実施機関

<<自治医科大学>>高橋宏典、和田善光、薄井里英

## 4 本研究の意義、目的、方法

妊娠中、胎児は母体から酸素や栄養素を血液を介して供給されます。胎児との血液と母体の血液の間には隔壁があり、ほとんど交わることはありません。しかし、胎児母体間輸血症候群は胎児の血液が母体へ移行してしまうことで、胎児が貧血状態になってしまう疾患です。症状は様々ですが、胎動減少や陣痛発来を契機に病院受診することが多いとされます。この疾患を発症すると胎児貧血、胎児機能不全、脳性麻痺や子宮内胎児死亡を引き起こします。しかし、発症頻度は 1100 から 1400 出生に 1 例と稀であり、未だ病態が解明されておられません。本研究では胎児母体間輸血症候群の病態とリスク因子を明らかにすることを目的とします。このデータベースは日本産科婦人科学会が主体となって集積している「周産期登録」であり、2-3 次医療施設の多くが参加しているため、本邦全分娩の 10%にあたる年間約 10 万件が登録されます。本学でも登録事業に参加しております。この電子化ファイルは既に個人が特定できないように加工されたファイルです。

## 5 協力をお願いする内容

日本産科婦人科学会が主体となって集積しているデータベースである「周産期登録」から下記の情報を収集します。患者年齢、身長、体重、入院理由、不妊治療の有無、母体紹介の有無、妊娠・出産回数およびその内訳、喫煙飲酒歴、分娩週数、分娩方法、分娩時出血、麻酔法、分娩胎位、誘導・促進の有無および方法、胎児心拍パターン分類、産科合併症、母体処置内容、出産体重、性別、Apgar値、臍帯動脈 pH、児体格、児疾患名、胎児付属物所見、産科既往歴、母体基礎疾患、母体感染症、母体使用薬剤、母体転帰、児の転帰。

## 6 本研究の実施期間

許可されてから 2025 年 12 月 31 日

## 7 プライバシーの保護について

本研究で取り扱う患者さんの情報は個人情報をすべて削除し、第3者にはどなたのものか一切わからない形で日本産科婦人科学会から提供され、使用します。患者さんの情報と個人情報を連結させることはありません。

## 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、【情報の利用や他の研究機関への提供（研究内容に応じて適宜記載）】の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合は診療のために受診された施設へのご連絡をお願いいたします。

研究代表者・分担者

高橋 宏典・和田 善光

TEL: 0285-58-7376

FAX: 0285-44-8505

Email: [hironori@jichi.ac.jp](mailto:hironori@jichi.ac.jp)

日本産科婦人科学会事務局

TEL: 03-5524-6900

FAX: 03-5524-6911

Email: [nissanfu@jsog.or.jp](mailto:nissanfu@jsog.or.jp)